

「戦争をする国にさせてたまるか！」

2015年11月12日

九条かながわの会は上記のタイトルで、11日の夜、関内ホールで集会を開催した。千人を超す大集会であった。「制服向上委員会」の可愛い歌とダンス、「憲法劇」の人権と平和を訴える歌で盛り上がった。法政大学の山口二郎教授は憲法を取り巻く現状を分析し、希望があると講演した。安保関連法は強行決議されたが、これを許さないとする運動は止まることがない。民主主義を守ろうとする市民運動は決議前と変わらず、各地で盛んに行われている。若者たちが積極的に参加している状況を頼もしく思っている。私も可能な限り加わっていきたい。昨夜の集会で、私は根岸線沿線九条の会を代表して下記のようなスピーチをした。

皆さん、こんばんは。ご苦労さまです。根岸線沿線には点々と九条の会があり、それぞれ独自の活動をしています。その中で6つの九条の会が連絡会を作り、点を線で結び、共同の活動を始めました。大きな力を発揮し、互いに勇気づけられました。私は、その根岸線沿線連絡会の秋吉です。

皆さんは、聖書に書かれている、この言葉をお聞きになったことがあると思います。紀元前8世紀、イザヤという預言者がこう言いました。「剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない。」剣、槍は人を殺す武器です。これを、鋤、鎌の農機具に火で打ち直す。農機具で農作物を作り、分け合って皆が腹一杯食べる。そうすると、国に向かって剣を上げて戦争をする必要がなくなる。このイザヤの言葉は国連の建物に刻まれています。世界の夢、人類の希望です。憲法九条は、イザヤの言葉通り、武器を使わず、戦争をしないと謳っています。平和への希望を、夢を追い求めることが人間である証ではないでしょうか。

先月、沖縄に行ってきました。沖縄のジャーナリストたち、座り込みをしている方々の話を聞いてきました。沖縄の人々は穏やかで、本当に優しい人々でした。しかし、控えめな言葉とたゆまない抗議行動の中に、二度と戦争をしない、平和を守り抜くという固い決意が見えました。そして、本土の私たちに、お前たちは沖縄をどう見るのか、どう関わるのかと、厳しく問われました。厳しい言葉も聞かされました。辺野古の美しい海の前で、座り込みの抵抗をしている方が「あなた方のお友だちの百田さん」と言われました。百田さんは琉球新報と沖縄タイムスを潰せと言った人です。私たちは辺野古、キャンプ・シュワブ、高江の座り込み参加するために、足を運んだ者です。また、このような集会をしています。が、沖縄から見れば、本土の人間は百田さんと同類と見られているということです。沖縄はイデオロギーでなく、アイデンティティを合言葉に、選挙に臨み、全ての選挙において、辺野古新基地建設反対の民意を示しました。イデオロギーでないと、共産党はようやく気付いてくれたようです。アイデンティティである。これは、人間の尊厳でしょう。人を差別、抑圧しない、人を殺さない。人間の尊厳に沖縄の声を集中しました。島ぐるみで翁長県知事を立て、自己決定権、人権を楯に闘っています。しかし、政府は、沖縄の民意を踏みにじり、新基地建設を進めています。政府の強権的な対応に本当に悲しくなり、はらわたが煮えくり返ります。

「戦争法」は強行可決されましたが、今から、この国に民主主義を作っていく、権力の暴走を止める立憲主義を作っていく。平和を作っていく。点が線につながり、線が面に広がっていく。そのような闘いを続けて、沖縄の人々に恥じないように頑張りましょう。